



オリンピック・パラリンピック特集



夢・未来プロジェクト

昨年10月30日（金）、令和2年度東京都教育委員会オリンピック・パラリンピック教育推進事業「夢・未来プロジェクト」の一環として、ウィルチェアーラグビーで2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドンと3大会連続で選手としてパラリンピック出場実績を持つ三阪洋行選手が有馬幼稚園に來園され、講演会と車いす乗車体験が行われました。

講演会では、車いすラグビーや様々なパラリンピック競技について紹介していただいた後に、実際に三阪選手が試合をしている映像を見せてもらい、園児達は興味津々の様子でスクリーンを見つめていました。

また、車いす乗車体験では、実際に競技用車いすに乗車し、部屋の中を走行しました。園児達からは、「どうやたらうまく回れるの」「まっすぐ走るのが難しい」など多くの声上がり、普段の生活と車いすでの生活の違いを実感したようでした。

三阪選手は、「障がいを持っていることでできること、できないことに違いはあるが、道具やルール次第でみんなと一緒に楽しむことができる。障がいがある人と一緒になっても、どんな風に工夫したら一緒に楽しめるか考えられるような人になってほしい」と園児達にメッセージを送りました。

晴海中学校オンライン交流会

昨年12月17日（木）、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに、卓球のオーストラリア代表として出場したメリッサ・タッパー選手と、晴海中学校2年生の生徒160名がオンラインで交流会を行いました。

ステージ上の大スクリーンに映し出されたメリッサ選手に、生徒は笑顔で手を振ったり、英語で会話をしたりと、交流の時間を楽しんでいました。

メリッサ選手は交流会の中で、代表選手として選ばれるまでの18年間の努力や、苦労した体験をお話してくれました。リオデジャネイロ大会で選手として出場するまでに、2度大会出場を逃した経験、それを乗り越えて自分の夢に向かって諦めずに練習を続けた結果、オリンピック・パラリンピック両方の選手としてオーストラリア代表に選ばれたお話を聞き、生徒達はメリッサ選手の障がいをものとしめない向上心にとっても感銘を受けている様子でした。

最後に、「今日の交流会がパラリンピックについて学ぶ機会になったのであれば、とても光栄です。」と生徒達にメッセージを送り、生徒達は最後まで真摯に耳を傾けていました。



阪本小学校・阪本こども園 新校舎落成式

令和2年11月14日 举行

秋晴れのもと、阪本小学校体育館を会場として新校舎の落成式を挙行了いたしました。会場内での密集を避けるため、1～3年生は各教室で中継視聴による参加とし、4～6年生が代表として会場に参加しました。式のプロプログラム「喜びのこぼれと邦楽演奏」では、校舎改築にお力添えいただいた保護者や学校関係者、地域の皆さまなど多くの方々に感謝の気持ちを込めて児童が発表・演奏を披露しました。歴史ある一番校への思いや新たな校舎で学ぶ喜びのこぼれに続き、5、6年生による邦楽演奏「喜びの歌」が体育館に響きわたり、ご来賓の皆さまから盛大な拍手をいただきました。例年に比べ特色ある教育活動である邦楽の練習も制限された中での発表でしたが、下級生たちに伝統をつなぐ確かな音色であり、児童や先生方の努力が感じられました。



教育委員会との意見交換会

2月9日（火）に、中央区PTA連合会が教育委員会との意見交換会をオンラインで開催しました。

今回は「1人1台タブレット端末の配布を見据えたICT教育について」をテーマに、3つのグループに分かれ意見交換を行いました。

タブレットの使用によって新たにできるようになることや授業での活用方法、学校外で使用する際に注意するポイントについてなど、活発な意見交換が行われました。今回の内容をそれぞれのPTAに持ち帰っていただき、今後のPTA活動に生かしていただければと思います。

中央区の教育に関する点検・評価 （令和元年度分）

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、各教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

本区教育委員会においても、より充実した教育行政の推進のために、「点検・評価」を実施し、報告書を作成しました。

区役所1階情報公開コーナーと6階教育委員会事務局庶務課で閲覧できます。また、区のホームページ（<https://www.city.chuo.lg.jp/kosodate/kyouikuinkai/chosa/tenkenhyouka.html>）にも掲載していますのでご覧ください。

※問合せ先　庶務課教育行政推進係　電話（3546）5503



かがやき



中央区教育広報紙

令和3年3月11日発行

No.164

編集：中央区教育委員会
〒104-8404 東京都中央区築地一丁目1番1号
☎（3546）5503

P.2 ICT教育　こんなことができるようになります
P.3 教育委員コラムリレー 渥美哲夫委員
P.4 オリンピック・パラリンピック特集
P.4 阪本小学校・阪本こども園 新校舎落成式

特集 ICT教育

タブレット端末 1人1台の環境が 実現します



▲1人1台タブレット端末を活用した授業



▲ICT機器を活用した授業



▲令和元年12月6日　研究発表会の様子

中央区教育委員会では、平成29年度からICT教育を推進している京橋築地小学校、阪本小学校、銀座中学校の3校において、タブレット端末を先行導入し、ICT機器を活用した効果的な授業に取り組んできました。昨年11月からは、こうした成果を踏まえ区内の全小・中学校及び宇佐美学園にタブレット端末を3学級に1学級分整備し、全校でICT機器を活用した授業を開始しています。また、昨今のコロナ禍を受け、中央区教育委員会では1人1台のタブレット端末の整備に向けて準備を進めてきたところであり、この度、本年4月から区内全小・中学校及び宇佐美学園において運用を開始します。

導入するICT機器

1人1台のタブレット端末のほか、校内にはWi-Fi環境を整備し、各普通教室には無線でつながるプロジェクター及び黒板に画像や動画を色鮮やかに表示するマグネットスクリーンを設置します。また、校外においてもインターネット通信が可能となるよう、LTEによる通信やWi-Fiルーターの貸出も予定しています。

ICT支援員の配置

教員がICT機器を活用し、効果的に授業を行うために、その活用についての助言や機器の整備、不具合の対応、校内における教員向けの研修を行うのがICT支援員です。令和2年11月からすでに区内の全校に配置しており、機器の整備と並行して支援を行ってきました。今後も、学校現場でのICT機器のさらなる活用に向けて、教員が効果的な授業を行えるよう支援していきます。



周年行事が行われました

豊海小学校開校40周年・豊海幼稚園開園40周年

昨年の11月28日（土）に40周年記念式典が執り行われました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ICT機器を活用し児童が各教室からオンラインで参加するなど、規模を縮小しての開催となりましたが、代表児童による「児童のことば」から記念すべき日を迎えられた喜びと感謝の気持ち、伝統を引き継いでいく決意を感じ取ることができました。

記念式典後のアトラクションは、事前に撮影した映像を視聴しました。年長園児による合奏をはじめ、「豊海小管楽器クラブ」による演奏や6年生児童による「南中ソーラン」のパフォーマンスは、練習した成果を十分に発揮した素晴らしい内容となり、出席者を大いに魅了しました。

日本橋小学校開校30周年・日本橋幼稚園開園30周年

開校開園30周年の歩みを祝う記念式典が、昨年12月5日（土）に日本橋小学校において執り行われました。式典に出席した6年生児童と年長園児による祝いの言葉が披露され、地域の方々や諸先輩方と改めて小学校と幼稚園の歴史と伝統を見つめながら、日本橋小学校・幼稚園に集える喜びと感謝の気持ちを伝えました。式典のオンライン配信や規模を縮小した催しとなりましたが、参列者の心に響く素晴らしい式典でした。

また、記念式典前のアトラクションでは、年長園児による「だいすき！にほんばし 30さいおめでとー」の踊りや和太鼓クラブの「元氣一番太鼓」の演奏のほか、6年生児童による合奏「百花繚乱」を披露し、地域の方々への感謝の気持ちを表現したものとなり、出席者のみなさんから温かい大きな拍手をいただきました。



教育委員コラムリレー 渥美 哲夫 委員

「明日も学校に行くぞ」から始めよう

1期を振り返っていかがですか

教育委員会の組織活動の範囲の広さに驚きました。学校教育はもとより、社会教育、芸術文化・スポーツ振興などの分野があり、委員会ではそれぞれに議論・審議を重ねていき、教育行政の施策に直接関わる職責の重みを実感しました。まずは、教育現場を知らなければならないと思い、就任後半年ほどで、中央区のすべての学校を回りました。授業だけではなく、行事もできる限り参観しました。

渥美さんから見た、中央区の子どもとは？

私は保護司としても活動しており、対象者に対して「今に至る原因は何だろう？」という見方をします。成長して行く過程では、教育や家庭環境による影響も大きいと感じています。中央区の子ども達には、自由な発想や思考の幅広さを学び、礼儀正しさを身につけ、このまま素直に育って、自ら生きる力を身に付けてほしいと思っています。

これからの子どもに必要な学びとは？

やはりICT教育です。他地域の学校を見学して感じたのは、タブレットなどの機器に対する慣れが重要だと感じました。一方で、情報収集が簡単にできるようになると、それがそのまま記憶として定着するのにか心配でもあります。ある本に書かれていましたが、読書は子どもの人間力を養うのに大切なことで、本をサーッと読み進めるのではなく、そこに何が書かれているのか、筆者は何が言いたいのかを読み取ろうとすることが大切だと。つまり、私が言いたいのは、「自ら考える経験を積極的にしてほしい」ということで、それには読書がおすすめです。

平成28年12月1日から、教育委員を務められている渥美哲夫委員。1期の任期を終え、2期目のスタートを切るにあたり、これまでの感想や今後の抱負を伺いました。

中央区の子どもたちへメッセージを

自分と異なる意見の人と揉めてしまったことはありませんが。これはとても大切なことで、そういう経験をしていないと、大人になってから困ります。意見を戦わせることで、自分とは異なる考え方があること、人それぞれ個性があることに気づくんです。いまコロナ禍で密になるような行動ができないのは残念ですが、私たちは人と関わることで成長します。勉強だけではなく、運動会、学芸会、音楽会でも、みんなで力を合わせて心をつなぐという経験をたくさんしてほしいですね。

学校は多種多様な人が集う楽しい場所。皆さんには、学校から家に帰ったとき、「明日も学校が、嫌だなあ」ではなく、「明日も学校に行きたいな」と思っしてほしいです。まずはここからスタートです。



【プロフィール】
中央区入船生まれ。大正14年創業の渥美運輸株式会社の代表取締役会長。平成13年5月から保護司として犯罪や非行を犯した若者等の更生・指導を行う。令和2年5月から中央区保護司会会長。平成21年4月から人権擁護委員を務める。趣味はゴルフ、散歩、音楽鑑賞。

教育委員会の主な活動状況（令和2年9月11日～令和3年3月10日）			
◆第10回定例会および研修会 10月21日（水）教育センター	◆第12回定例会および研修会 12月9日（水）教育センター		
◆各種功労者表彰式 11月3日（祝）銀座プロッサム	◆仕事始め式 1月4日（月）		
◆第11回定例会および研修会 11月11日（水）	◆第1回定例会および研修会 1月13日（水）教育センター		
◆第2回いじめ問題対策連絡協議会 12月3日（木）教育センター	◆第2回定例会および研修会 2月3日（水）教育センター		
◆職員表彰式 12月4日（金）銀座プロッサム	◆第2回いじめ問題対策委員会 2月17日（水）教育センター		

こんなことができるようになります

1人1台のタブレット端末を導入することにより、これまでできなかったことや新たな効果が望めるなど、学習の幅が広がります。こちらに記載するものはこれからの展望も含めたものもありますが、一例をご紹介します。

子どもたちの将来の選択肢が増える

21世紀の社会は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」といわれています。実際に、私たちのまわりをみてもICT機器があらゆる分野で活用され、生活を便利なものにしてれています。ICT機器がなくても勉強はできる、大人が見せたくないものまで見せてしまう恐れがある等の意見もありますが、だからこそ学校で1人1人がICT機器に触れ、ICT機器の活用や情報モラルについて学ぶことが重要だと考えています。

これからのデジタル社会にも順応し、力強く生きていく道の一つとして役立つよう学校でのICT機器の活用を進めていきます。



▲ICT機器を活用した授業▲

家庭学習の幅が広がる

これまで、学校から配付された学習プリントを児童・生徒が家で取り組み、教員に提出して評価してもらうといった方法が主なものでした。今後は、これに加えて自己のレベルに応じた学習ドリルへの取組や、オンラインを活用した学習（動画視聴等）なども可能となります。今後とも、家庭学習の幅をさらに広げられるよう検討していきます。

適応教室におけるオンラインによる学習指導

教育センターの適応教室「わくわく21」では、不登校の状況であっても学習する機会を確保できるよう、タブレット端末を持参して自学自習できるように環境を整備していきます。また、適応教室に入室した児童・生徒が自宅にいてもタブレット端末を活用してつながることができるよう検討していきます。

保護者の皆様をお願いしたいこと

学校において、教員からタブレット端末の扱い方やインターネットの使い方などを含めた情報モラル教育は行っていますが、各ご家庭においても保護者の皆様のご協力が必要不可欠となります。以下のポイントにご配慮いただき、「SNS家庭ルール」を各ご家庭で設けていただくことをはじめ、皆様のご協力をお願いいたします。



●ルールを作るときのポイント

決めたルールを守れないということはないでしょうか。ルールは大人が一方的に決めるものではなく、子供と一緒に作る事が大切です。

- Point 1 「ルールがトラブルから自分自身を守ってくれる」ことをきちんと伝える。
- Point 2 お互いに納得できるよう、話し合って作る。
- Point 3 子供が守れるルールを作る。
- Point 4 具体的なルールを作る。
- Point 5 守れなかったらどうするか決めておく。
- Point 6 トラブルがあったら保護者に相談するよう決めておく。

「話し合っていますか？家庭のルール」（文部科学省）
(https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsfiles/afidfile/2016/06/07/1371802_3.pdf) を加工して作成



令和元年12月6日 研究発表会の様子

これまで以上に効果的な授業が可能となる

タブレット端末を活用した授業では、教員が提示した課題について児童・生徒1人1人の考えをタブレット端末に入力し、それを教員に送信することにより瞬時に把握することができます。また、挙手をして発表することが苦手な児童・生徒についても、教員は児童・生徒の状況を把握することができるようになり、これによって、教員が学習につまずいている児童・生徒に対してより適切な個別指導をすることができるようになります。その他、黒板いっぱいに表示された歴史の一場面の画像や色鮮やかな伝統工芸品の写真の閲覧、運動における効率的な体の動かし方の動画の視聴など、ICT機器を利用するだけでも子どもたちの興味・関心を高め、主体的な学習態度を育むことができるほか、教員がこれらICT機器を場面ごとに効果的に活用した授業を行うことで、さらなる相乗効果が生まれます。

これまでの教育実践の蓄積

+

ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの
視点からの授業改善

一斉学習	「1人1台端末」ではない環境 ・教員が大型提示装置等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる	学びの深化	「1人1台端末」の環境 ・教員は授業中でも一人一人の反応を把握できる →子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に
個別学習	・全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）		・各人が同時に別々の内容を学習 ・個々人の学習履歴を記録 →一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能
協働学習	・意見を発表する子供に限られる		・一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有 ・子供同士で双方向の意見交換が可能に →各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる

ICTの活用により充実する学習の例

▶調べ学習	課題や目的に応じて、インターネット等を用い、様々な情報を主体的に収集・整理・分析
▶表現・制作	推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
▶遠隔教育	大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び
▶情報モラル	教育実際に情報・情報技術を活用する場面(収集・発信など)が増えることにより、情報モラルを意識する機会の増加

「GIGAスクール構想の実現へ」（文部科学省）
(https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf)